

温 泉 分 析 書

ホクカン 分析センター 温泉第 12-003 号

1	申請者	(住所) 北海道網走郡美幌町字東2条北2丁目25番地 (氏名) 美幌町長 土谷 耕治							
2	源泉名および湧出地	温泉 (源泉名 美幌町都橋 1号井) 湧出地 網走郡美幌町字都橋 4 0番地 1 (掘削井、天然ガス付随)							
3	湧出地における調査および試験成績	(イ) 調査および試験者: 株式会社 ホクカン 環境化学分析センター 堀 智 臣 (ロ) 調査および試験年月日: 平成 25 年 2 月 18 日 (ハ) 泉 温: 34.8 °C (気温: -5 °C) (ニ) 湧出量: ※ ℓ/min. (動力揚湯) (ホ) 知 覚 的 試 験: 無色澄明、無味、無臭 (ヘ) pH 値: 8.5 (ト) ラド ン (Rn): マッヘ単位 / kg							
4	試験室における試験成績	(イ) 試 験 者: 株式会社 ホクカン 環境化学分析センター 武 田 直 樹 (ロ) 分析終了の年月日: 平成 25 年 3 月 4 日 (ハ) 知 覚 的 試 験: 微褐色澄明、無味、無臭 (採水後 8時間) (ニ) 密 度: 0.9984 (20 / 4 °C) (ホ) pH 値: 8.53 (ヘ) 蒸 発 残 留 物: 0.112 g/kg (110 °C)							
5	試料 1kg 中の成分	分量および組成							
(イ) 陽イオン		ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)	(ロ) 陰イオン		ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
水素イオン	H ⁺				フッ素イオン	F ⁻	0.2	0.01	0.72
ナトリウムイオン	Na ⁺	29.2	1.27	93.38	塩素イオン	Cl ⁻	3.3	0.09	6.52
カリウムイオン	K ⁺	1.3	0.03	2.21	水酸イオン	OH ⁻			
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺	1.0	0.06	4.41	硫化水素イオン	HS ⁻	0.0	0.00	0.00
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	0.0	0.00	0.00	チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻	0.0	0.00	0.00
カルシウムイオン	Ca ²⁺	0.0	0.00	0.00	硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	1.9	0.04	2.90
アルミニウムイオン	Al ³⁺				炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	64.2	1.05	76.09
マンガンイオン	Mn ²⁺				炭酸イオン	CO ₃ ²⁻	5.4	0.18	13.04
第一鉄イオン	Fe ²⁺				リン酸イオン	H ₂ PO ₄ ⁻	0.5	0.01	0.72
第二鉄イオン	Fe ³⁺								
計		31.5	1.36	100.	計		75.5	1.38	100.
(ロ) 遊離成分									
非解離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	非解離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)		
メタ珪酸 H ₂ SiO ₃		115.4	1.48						
計		115.4	1.48						
溶存物質 (ガス性のものを除く)				0.222 g/kg					
溶存ガス成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)						
遊離二酸化炭素 CO ₂		0.0	0.00						
遊離硫化水素 H ₂ S		0.0	0.00						
計		0.0	0.00						
成分総計				0.222 g/kg					
(ニ) その他微量成分		アルミニウム: 0.019mg/kg、マンガン: 0.066mg/kg、第一鉄: 0.09mg/kg、銅: 0.013mg/kg、亜鉛: 0.066mg/kg、カドミウム: 検出せず、鉛: 検出せず、総水銀: 検出せず、総ヒ素: 検出せず、メタ硼酸: 検出せず							
6	泉 質	アルカリ性単純温泉 (アルカリ性低張性温泉)							
7	禁忌症、適応症	「温泉分析書別表」中5に記載する。							
平成 25 年 3 月 4 日		登録分析機関 登録番号 北海道第 3 号 北海道旭川市永山 1 4 条 3 丁目 3 番 4 号 株式会社 ホクカン 環境化学分析センター 代表取締役 木 村 進 一							

温 泉 分 析 書 別 表

1	源 泉 名	美幌町都橋 1号井
2	湧 出 地	北海道網走郡美幌町字都橋40番地1 (掘削井、天然ガス付随)
3	温泉分析申請者	網走郡美幌町字東2条北2丁目25番地 美幌町長 土谷 耕治
4	泉 質	アルカリ性単純温泉 (アルカリ性低張性温泉) (旧泉質名: 単純温泉)
5	療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。	
浴 用	禁忌症	急性疾患 (特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全 出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中 (特に初期と末期)。
	適応症	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、疲労回復 慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、健康増進。
飲 用	禁忌症	
	適応症	
<p>浴用、飲用の 一般的注意事項</p> <p>1 入浴の方法及び注意</p> <p>(1) 熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こすことがあるので十分注意をすること。</p> <p>(2) 入浴時間は入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分位とし、なれるにしたがって延長してもよい。</p> <p>(3) 入浴中は運動浴の場合は別にして、一般には安静を守ること。</p> <p>(4) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守ること。</p> <p>(5) 高度の動脈硬化症、高血圧症及び心臓病の患者は原則として、高温浴 (42℃以上) を禁忌とする。</p> <p>(6) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さないのがよい。ただし、「湯ただれ」をこし易い人は逆に浴槽裏水で身体を洗うか、温泉成分をふき取るのがよい。</p> <p>(7) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。</p> <p>(8) 飲酒しての入浴は特に注意すること。</p> <p>(9) その他</p> <p>2 飲用の方法及び注意</p> <p>(1) 飲用の1回量は一般に100mlないし200ml程度とし、その1日量はおおむね200mlないし1,000mlまでとする。</p> <p>(2) 一般には食前30分ないし1時間がよい。</p> <p>(3) 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けること。</p> <p>(4) その他</p> <p>◎ 温泉療養に際しては、医師の指導を受けることが望ましい</p> <p>(注) この別表は、温泉法第14条による掲示に必要な参考資料となるものである。</p>		
平成 25 年 3 月 6 日		
決定者 北海道立衛生研究所長		